



「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいている大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

### 新しい「まじら」の祭は

令和二年は春先から新型コロナウイルスの蔓延のため、祭礼行事に皆様のご参列をいただくことができず、五月の例大祭の「おわたり行事」も、七月の天王祭の町内巡幸も中止せざるを得ない状況となりました。「賑はひ」こそが祭礼の本来の姿であるのに、誠に残念な一年となりました。この間、恒例の祭典は、参列者なくともすべて滞りなくご奉仕し、国家の安泰と氏子・崇敬者の繁栄に併せて、一日も速い厄疫退散にもご加護のあらんことを祈願いたして参りました。

月次祭と神道講話は、過密となる人数とはなりませんので、毎月の実施を継続できました。この間、日々のお詣りを継続されてをられる方々も多くをられましたことは、まことに有り難いことでした。「ステイホーム」や「リモートワーク」とかが推進されるなかで、早朝に「密」をさけて、運動もかねて歩いて近くの神社に参拝することが、免疫力向上にもなるともいはれます。これは昔からの生活習慣でもありませう。「新しい生活様式」は、先祖の残した様式のなかにこそあるのではないでせうか。

(写真) 明治初期の鶏卵印画紙に着色した平潟湾の写真。瀬戸橋が堤の先に二本で架かってゐます。

### 令和三年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭  
鶏鳴神事
- ◎ 二月 三日 天長祭
- ◎ 三月 二〇日 春季大祭  
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 一五日 例大祭  
神社本廳献幣使参向  
琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 六月 三〇日 大祓式  
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 四日 天王祭出御祭  
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 六日 三つ目神楽  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 一日 天王祭巡幸祭  
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 一八日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一七日 手子神社秋祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一一月 三三日 秋季大祭  
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市  
開運熊手授与
- ◎ 二月 三三日 大祓式  
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭

### 三社託宣と雨宝童子

室町時代から江戸時代にかけて「三社託宣」といふ教えが、掛け軸などとなつて庶民にも広まりました。

三社とは天照皇大神宮・八幡大菩薩・春日大明神のことで、この三柱の神の託宣とされたのは以下のもので、正直・清浄・慈悲などの徳を重んじたものでした。

#### ▼天照皇大神宮の託宣

謀計は眼前の利潤たりと雖も、必ず神明の罰に当る

正直は一旦の依怙に非ずと雖も、終には日月の悔れみを蒙る

#### ▼八幡大菩薩の神託

鉄丸を食すと雖も、心汚れたる人の物を受けず

銅焰に座すと雖も、心穢れたる人の処に到らず

#### ▼春日大明神の神託

十日の注連を曳くと雖も、邪見の家には到らず

重服深厚たりと雖も、慈悲の室に赴くべし

このやうに、「心」の清浄が大切とされました。そしてこの三社のご神像を描いた掛け軸が

多く作られます。

神仏習合の時代に、八幡さまは八幡大菩薩と称し、弓矢を持ちます。また、天照皇大神は「雨宝童子」という姿に表現されました。

童子の姿で、頭に五輪塔、右手に金剛宝棒、左手に宝珠を持ち、天照大神が日向に下生の姿で大日如来の化身ともいわれます。伊勢の朝熊山の金剛證寺の雨宝童子像は

空海が同寺で修行中に十六才の天照大神を彫ったと伝へる平安時代の作で重要文化財です。

春日大明神には鹿が伴ひ、または鹿に乗った姿で描かれます。

江戸時代後期に復古神道が盛んになり、明治維新で神仏分離が推進されると、天照皇大神は雨宝童子ではなく女神の姿で描かれます。



#### 朝比奈町鎮座

#### 熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものとひます。仁治二年(一二四二)、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたこととせう。

その後、元禄八年(一六九五)、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成し、さらに平成御大典記念事業として新たな拝殿を建築竣功して今日に至つてゐます。

御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

例祭日は九月十七日で、昔ながらの古式にのつとつた湯立神楽が今も続けられてゐます。

### 瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前(古墳時代)のことです。

治承四年(一一八〇)鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの靈域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教法人となり神奈川県神社廳勅幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年に屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修宮事業が行われました。

### 御祭神

大山祇(おほやまつみ)の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。  
須佐之男(すさのを)の命

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれています。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。  
菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

### 釜利谷町鎮座

### 手子神社

釜利谷町総鎮守の手子神社は、もとこの地の領主伊丹左京亮が、文明五年(一四七三)瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年(一六八〇)、伊丹氏の子孫、三河守昌家の子で、江戸浅草寺の智樂院忠蓮僧正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰をあつめて来ました。

明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加えました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日(現在はその後の日曜日)ですが、十月十五日(前後の日曜日)の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行われます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されています。

### 谷津町鎮座

### 浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊し、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目の下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の來訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。

祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭(近くの土日曜)には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他のにぎやかな行事が営まれます。寛正四年(一四六三)西山松眠といふ医師が神饌田を奉納、以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりには崇敬者婦人が分けあつたといふことです。

### 年末年始のご参拝につきお願いひとこ案内

例年、新年にはたいへん多くの方々にご参拝いただきをります。年末、年始につきましては、以下の通り予定いたしますので、ご理解とご協力を御願ひいたします。

●新年歳旦祭（鶏鳴神事）は恒例の祭事として齋行を予定します。但し、鶏鳴所役は人数を制限します。  
●初詣に来られる方は、マスク着用の上、自主的に距離を保ち

ながら、譲り合って渋滞のないご参拝にご協力ください。  
●手水の柄杓、鈴の緒は正月期間はお出ししません。  
●新年の神札・授与品（神棚のお札やお守り、破魔矢など）は、年末から授与を予定しますので、三が日にこたはらず、時期をず

らしてのご参拝をお願いします。  
●新年の昇殿ご祈願（家内安全、商売繁盛、厄除け祈願ほか）は、殿内の密集を避けるため、すべて予約いただきます。電話にてご予約ください。参拝人数につきましても制限させていただきます。ご了承ください。

# 年末年始も密をさけて 安心のご参拝を

変わらない祈りのために



## 時期をずらす

七五三や年末年始は密になることが予想されます。時期をずらしてお参りしましょう。



## 距離をたもつ

身体的距離を保ちながら、お参りしましょう。距離がとれない場合は、マスクをつけ、会話をできるだけ控えましょう。



## マスクをつける

境内では、マスクを着用しましょう。



## お神札やお守りは 混雑を避けて

お守りなどの授与品や縁起物は、空いている時期にお願いいたします。年末から頒布しているところもあります。

瀬戸神社 電話 三三三六〇〇七  
横浜市金沢区瀬戸十八ー一十四  
(電話) 〇四五七〇ー一九九九二  
(FAX) 〇四五七〇ー一九九九四  
<http://www.setoinjia.or.jp>

●大晦日の「大祓」は神事は社殿内で参列なしで実施します。みなさまには「ヒトガタ」をお納めになられ、各自で茅の輪くぐりをされてください。  
●古神札のお焚き上げはいたしません。(お札、お守りのお納めはお受けします。納め所にお持ちください。)  
●お札、お守り類以外(しめ縄、門松、人形の類など)はお受けできません。(お清めのお塩、または人形の昇魂の神札を授与します)ので、各自でお清めの上、処分されることをおすすめします。